

大通公園を望む窓辺から

人生初の入院を経験しました

常任理事 目黒 順一

これまで何度も外来で治療を受ける側になった経験はありました。

数年前から、視力の低下を自覚するようになりましたが、多忙を理由に眼科受診を回避してきました。自己判断ではおそらく白内障とっていました。視力の低下が次第に進行し、老眼と相まっていよいよ読書や書類の閲覧がやや困難になってきました。さらに、運転免許証の更新時期が迫り、このままでは視力検査で不合格になる可能性を感じました。まさに医者の不養生を地で行く状況でした。

ある日、常任理事会の日に、眼科医の笹本常任理事に経緯と実情を包み隠さずにお話し、現在の症状にふさわしい医療機関をご紹介していただきました。その結果、現在通院中の病院眼科を受診しました。診断結果はやはり白内障でした。治療はまず重症の右から行うものの、水晶体が硬くて超音波による摘出が難しい可能性があることから、数日の入院を指示されました。幸い、やや難渋したものの、うまく摘出していただき、予想より早く退院許可が出ました。別の日程で、左側もうまく処置していただきました。

人生初の入院で、看護スタッフの優しさに癒されました。自分のところは大丈夫かなと思いつつ。今更ですが家族にも感謝です。

入院中の術翌日に貴重な体験をしました。眼帯を外し、細隙灯で検査を受けている最中に、美しい光景が眼前に広がりました。なんと自分の網膜がくっきり見えたのです。綺麗な血管の走行や眼底の様子が拡大されて見えました。おそらく眼内レンズに反射して見えたのでしょう。プラネタリウムを見ているような気持ちになりました。自分の中にある小宇宙を感じた瞬間でした。もっと自分を大事にしなきゃとも思いました。主治医はそんなことを言った患者は初めてとのことでした。

その後、運転免許証の更新も無事に終了し、引き続き通院中です。関係諸氏に感謝しつつ、明るくなった世の中を日々実感しています。

十勝放射線技師会

理事 稲葉 秀一

半年ぶりのスーパーおおぞら6号（帯広発12時57分）を利用しての道医理事会行きです。昨年8月の台風10号による水害で、8月31日から12月21日までJR石勝線は不通となり、その間の札幌行きは愛車を操り何とかその役目を果していましたが、冬場はそれなりにストレスを感じる運転が求められました。今日はいつものJR、定刻発車を確認するとほっとしたのか少しウトウト・・・。

私が医師になりたての昭和55年当時、画像診断の分野では超音波検査・CT検査がやっと医療機関に導入された頃で、そのほとんどが一般撮影・X線TV撮影・血管造影検査でした。胸部レントゲン写真ひとつ撮るにも、こちらで得たい情報のため、職人技の技師さんのもとに何度も通ったものでした。それが今では、MRI・PET・マンモグラフィ・眼底カメラ等も加わり、習得を要する医療機器が格段に増えています。さらに超音波・CT装置の技術革新に伴い、高度医療に対応すべく、より専門性の高い画像診断が求められています。また、全てにおいてアナログからデジタルへ変遷しオートメーション化し、誰が見ても解る普遍性を持った画像になっています。これら急速に進歩・発展する放射線診療を速やかに臨床に提供するためには、医師一人がいくら頑張っても出来ることではなく、多くの医療職、特に放射線技師の協力は不可欠です。

十勝二次医療圏には会員数約160名の十勝放射線技師会があり、一般臨床はもとより地域住民を対象とした健診・検診事業にも積極的に取り組まれています。平成26年4月からは、帯広市休日夜間急病センターにも会員を派遣していただき、救急医療の一翼をも担っていただいています。医療事故調査制度におけるAi検査、帯広市で特に死亡率が高い膵臓がんの早期発見に向けての超音波検査をはじめ、この地域の医療の質の向上のためには、これまで以上に十勝放射線技師会との連携が必要なのは・・・。

そんなことを考えていたら、そろそろ札幌に着く時間になりました。

